てんかんセンター巡り 第17回

近畿大学医学部附属病院

施設概要

住　　所	〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2
電　　話	072−366−0221
ホームページ	http://www.med.kindai.ac.jp/huzoku/
代表診療科	脳神経外科
日本てんかん学会専門医の人数	2名（うち指導医1名）

施設の特徴と地域の中で担う役割

近畿大学医学部附属病院は、大阪狭山市に本院、堺市に堺病院、近隣県の奈良県には奈良病院と3つの病院を有しています。てんかん外科治療を担っている本院は、大阪府南部に位置しています。全診療科25科で約950床をもつ、南大阪地区唯一の先進医療を担う特定機能病院です。

てんかんは診断から治療を小児科、神経内科、精神神経科、脳神経外科などの科で取り組まなければならない病気です。当院では、てんかん専門医認定研修施設の認定を受けていますが、その専門医は脳神経外科医2名のみで、てんかん診療への取り組みは、外科加療を主として行っています。大学病院のみではすべての患者さんをみることができないほど、てんかん診療希望者数は多く、地域医

療と密接した医療体制の構築が望まれます。

そこで、加藤天美教授を中心に、開業医・クリニック、病院と連携し、総合的なてんかん診療を行える施設間診療連携ネットワークを、2015年に構築しました。現在は、このネットワークを活用し、当大学病院へは診療ネットワークから当院患者支援センターが窓口となって、病状に合わせて適切な医療施設で診療が受けられるようにしています。

当院内での各診療科を包括した「てんかんセンター」は、未だ標榜しておりませんが、地域との診療ネットワークを通じて、よりよいてんかん治療の一翼を担えるように現在各科との連携を構築しています。

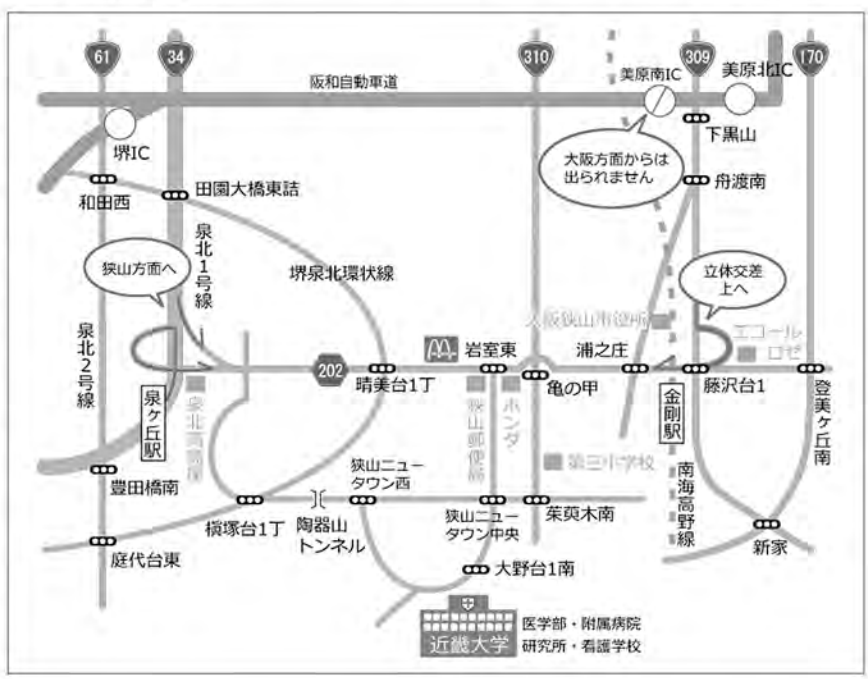
実績と特徴

幼小児期の難治てんかん例に関しては、当院小児科をはじめ近隣の大阪府立母子保健総合医療センターと連携して外科加療を行っています。

頭部MRI、PET、SPECTを当院で備え、MEG（脳磁図：近隣病院で施行）といった画像診療設備を備え、ビデオ脳波モニタリングにて、実際のてんかんの状態を記録、検討し、①焦点切除術、②海馬切除術、③脳梁離断術、④迷走神経刺激術などを行っています。

てんかん診療には、看護師、検査技師の医療従事者向けの研修も充実させるべく、年6回の検討会を行い、日々、切磋琢磨しています。

当施設は、救命救急センター施設も新たに発足し、神経救急疾患に対応しています。また、施設内には新たにハイブリッド手術室も設置し、高度で、安全かつ有効なてんかん治療をめざしています。

（脳神経外科講師　中野 直樹）

ハイブリッド手術室